

神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会

平成29年度は、神奈川県青少年指導員制度が創設されてから50年という大きな節目の年です。平成30年3月11日(日)には、みなとみらいホール(横浜市)で神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会が開催され、実に、県下約1,500名の青少年指導員が一堂に会しました。

大会は、陸上自衛隊高等工科学校ドリル部と横浜市立樽町中学校文化部有志によるすばらしいオープニングアトラクションから始まりました。



<陸上自衛隊高等工科学校ドリル部による演技>



<横浜市立樽町中学校文化部有志による合唱>

第1部の式典では、全青少年指導員を代表して、石井一也神奈川県青少年指導員連絡協議会会長(横浜市)より、大きな節目である50周年記念大会開催のお礼と、戦後の荒廃期、高度経済成長期、オイルショック、バブル期と、大きなうねりを経て、現在に至るまで、先を歩み、歴史と信頼を残してくださった諸先輩への謝意が述べられ、また、今後の活動への熱い思いと期待がにじむ挨拶をされました。



<黒岩祐治県知事あいさつ>

そして、黒岩祐治神奈川県知事から「青少年指導員の皆様には、長年にわたり、本県の青少年の健全育成の推進に多大なお力添えをいただいております。深く感謝申し上げます。未来を担う青少年が、自らたくましく生きる力と思いやりの心を持った人間として成長するためには、地域で青少年の健全育成に携わっておられる皆様の豊富な御経験と熱い思いが不可欠です。このたびの50周年という大きな節目を契機とし、

今後とも青少年が健全に育つよう、なお一層御尽力いただくとともに、県の取組みにもお力添えをいただくようお願い申し上げます。(当日あいさつ一部抜粋)」とお言葉をいただきました。

続いて、柏崎誠横浜市副市長から「50年間の活動に深く感謝申し上げます。今後も青少年指導員の皆様と連携し、横浜市としても、より一層青少年施策の推進に取り組んでいきます。」とお言葉がありました。

来賓祝辞では、小野寺慎一郎神奈川県議会副議長より、神奈川県青少年指導員制度50周年へのお祝いの言葉をいただきました。

第1部終了後、大会は第2部に移り、プロジェクトXでお馴染みの元NHKエグゼクティブアナウンサー国井雅比古氏に御講演いただきました。「プロジェクトX～挑戦者たちの素顔～」をテーマに、瀬戸大橋建設を最前線で指揮した杉田秀夫氏の生き様を表すエピソードを中心に、国井氏御自身の経験も交えながら御講演いただき、参加した青少年指導員にとって大変興味深い講演でした。

「神奈川県青少年指導員制度50周年及び記念誌発刊にあたって」

恥ずかしいことに、マスコミの世界に身をおきながら、青少年指導員がどんなことをしている方なのか知りませんでした。今回、お話しを伺ったり、資料を読ませて頂いたりして、驚きました。

子供たちの暮らしや日々の活動を支援し、取り巻く環境の改善のために、横浜市だけで2,700人、神奈川県全体では5,300人も多くの方が、自分の仕事を抱えながら、しかも殆ど無報酬で活動されていると知りました。中には30年以上指導員をされている方がいると聞き、本当に頭がさかかります。

指導員をしていて良かったという答えの中に「地域のいろいろな職業、階層の人たちとのかかわりで人間関係がふえた。」をあげた方がいます。

地域は今、多くの問題を抱えています。子供ばかりでなく、高齢者や障害者などにとってもより住みやすい環境をどうやって作っていくか？これからはそうした複合した問題の克服にも挑戦されていくことを期待します。



元NHKエグゼクティブ
アナウンサー
国井 雅比古 氏

大会の最後には、青少年指導員だけでなく、陸上自衛隊高等工科学校ドリル部、横浜市立樽町中学校文化部有志の生徒たちも加わり、会場全員で『若いてすばらしい』を合唱し、場内が一体感に包まれ、大きな盛り上がりの中、閉会を迎えました。今回の大会で生まれた県下の青少年指導員の一体感が、今後の活動にも活きることを期待されます。



<会場全員による合唱>



<横浜市青少年指導員スタッフ一同>

記念大会には54名の横浜市青少年指導員が運営スタッフとして従事しました。大会を終え、従事者からは、「こうした節目の式典に関われたことは青少年指導員として大きな思い出となりました。」「無事に終了してよかったです。」といった声を聞くことができました。

当日、運営に従事した青少年指導員の皆様、本当にお疲れ様でした。

青少年指導員制度50周年記念 平成29年度横浜市青少年指導員大会

平成30年2月17日、神奈川県立音楽堂において「青少年指導員制度50周年記念平成29年度横浜市青少年指導員大会」が開催されました。

石井一也横浜市青少年指導員連絡協議会会長(港北区)は永年勤続者の栄誉を称えたのち、自身の青少年指導員活動を振り返り「多くの人との良き出会いが自分の財産。今回の50周年を一つの契機として、青少年指導員同士の繋がりをより深めていき、さらなる活動の発展に向けて取り組んでいこう」と力強く話されました。



<石井会長あいさつ>

柏崎誠横浜市副市長からは、50周年へのお祝いと、青少年指導員が、地域の大人として、子どもたちの挑戦や成長を見守り、成長を後押ししてくれていることへの感謝のお言葉をいただきました。

永年勤続者顕彰では、長年御尽力の青少年指導員に対し、柏崎副市長より、感謝状の贈呈が行われ、224名の方が表彰されました。



<永年勤続者への感謝状の贈呈>

続いて、会長会表彰では、29年度をもって区会長を退任される、佐藤会長(鶴見区)、金子会長(青葉区)、小西会長(栄区)に石井会長から感謝状の贈呈を行いました。また、今年度をもって横浜市青少年指導員連絡協議会会長及び港北区会長を退任される石井会長にも、感謝状の贈呈を行いました。

その後、来賓の皆様を代表し、松本研横浜市会議長、松澤孝郎横浜市町内会連合会会長より、制度創設50周年へのお祝いと今後の活躍への期待のお言葉をいただきました。

式典の最後には、青少年指導員の新シンボルマークの発表(詳細はP89)と採用者への表彰を行いました。

第2部には、記念講演講師の鈴木一光氏から「子どもは歴史の希望～子どもの幸せを育む～」をテーマに講演をいただきました。今後の活動に活かすことのできる貴重なお話でした。

閉会后、大会を振り返って、小林利彦大会運営委員長(金沢区)より、「青少年指導員制度50周年という節目の年に大会を無事に終えられてよかった。」との総括がありました。

「子どもは歴史の希望～横浜市青少年指導員制度50周年を祝して～」

ヒトが未熟に生まれ自立に要する時間が長くかかるのは、地球上の何処で生きることになるのか産まれるまで判らないからです。寒冷の荒野か、熱帯の密林か。

その環境を生き抜く力を授けるために、産みっぱなしにしないで長い時間をかけて育てる方法を採用しました。

逆に言うと私たちヒトは、両親と地域の人々から愛情と共に社会適合する学習機会をたっぷり与えられないと人になれません。

青少年指導員は、地域の親子を支えて50年、半世紀に及ぶその継続に心より敬意を払うと共に、磨きのかかった壮年期の一層の活躍を祈念し期待いたします。



一般財団法人
児童健全育成推進財団
鈴木 一光 理事長

横浜市青少年指導員新シンボルマーク決定



青少年を見守る社会をサポートする
横浜市青少年指導員のシンボルマーク

神奈川県青少年指導員制度創設50周年を契機に、より多くの市民の皆様へ青少年指導員を知っていただくため、横浜市青少年指導員連絡協議会では、現行のあいちゃんマークにかわる新たなシンボルマークを「青少年を見守る社会をサポートする横浜市青少年指導員のシンボルマーク」をテーマに横浜市全域で募集しました。

7月の募集開始から、10月末の締め切りまでに実に230作品もの応募がありました。

応募作品は、各区協議会や横浜市社会環境健全化部会において検討を重ね、2月の横浜市青少年指導員連絡協議会定例会において決定いたしました。

作品が採用された菅原様には、2月17日開催の横浜市青少年指導員大会において、石井一也横浜市青少年指導員連絡協議会会長より表彰状が授与されました。

今回決定したシンボルマークは平成30年4月1日以降、横浜市青少年指導員の様々な活動で使用していくことになります。青少年指導員の活動の意義がより多くの市民の皆様へ伝わっていくことを願っています。



<新シンボルマーク採用者表彰>

数多くの作品の中から1つを選ぶということは非常に大変でしたが、素晴らしい作品に無事決定したことを大変うれしく思います。

今後、青少年指導員がこのシンボルマークと共により一層地域で活躍していくことを期待しています。

<新シンボルマーク選考の中心を担った佐藤社会環境健全化部会長より一言>



青少年指導員である夫から今回のシンボルマーク募集があることを聞き、少しでも活動に協力できればと応募しました。まさか、採用されるとは思ってもよらなかったもので、驚いていると同時に大変嬉しく感じております。

青少年指導員の活動をより多くの方々に親しんでいただきたいと考え、シンプルでわかりやすいデザインにしました。青少年指導員マークとして末永く御利用いただければ幸いです。

<新シンボルマーク採用者の菅原様より受賞にあたり一言>

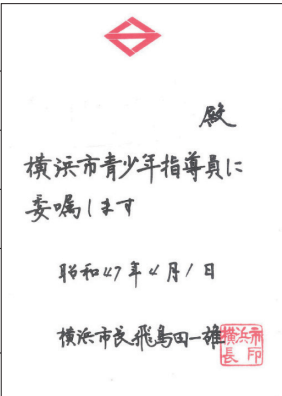


これまで横浜市青少年指導員と共に歩んできたあいちゃんマークは今回の新シンボルマーク決定に伴い、青少年の健全育成の現場から退くこととなりました。

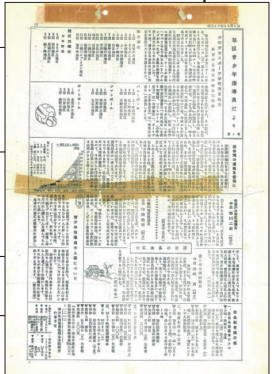
あいちゃん、今までありがとう。

横浜市青少年指導員活動年表

西暦	年号	行事
1947年	S22	神奈川県で児童愛護班が結成
1950年	S25	神奈川県校外生活指導者が結成
1961年	S36	県域で地区少年指導員を設置
1968年	S43	神奈川県青少年指導員制度発足(地区少年指導員から改称)
1969年	S44	港南区・旭区・緑区・瀬谷区誕生 横浜市青少年指導員活動開始
1973年	S48	横浜市青少年指導員連絡協議会発足
1974年	S49	旭区青少年指導員だより第1号発行
1975年	S50	神奈川区青少年指導員だより第1号発行
1976年	S51	中区「第1回文明開化ウォークラリー」開催 旧社会環境実態調査開始
1977年	S52	保土ヶ谷区青少年指導員だより第1号発行 金沢区青少年指導員だより第1号発行
1978年	S53	保土ヶ谷区「第1回新春かるた大会」開催
1979年	S54	横浜市青少年指導員10周年記念大会開催・10年顕彰開始 旭区「第1回こども写生大会」開催
1980年	S55	「第1回横浜市青少年フェスティバル」開催(横浜スタジアム)
1981年	S56	「第1回横浜市青少年指導員大会」開催 南区「第1回ボイスオブユース(青少年の主張)」開催 港南区青少年指導員だより第1号発行
1982年	S57	戸塚区「第1回児童文化教室作品展」開催
1984年	S59	横浜市青少年指導員15周年記念大会開催 中区青少年指導員だより第1号発行
1986年	S61	第1回手作り紙ヒコーキ横浜大会開催 西区青少年指導員だより第1号発行
1987年	S62	栄区・泉区誕生 栄区青少年指導員だより第1号発行 泉区青少年指導員だより第1号発行 保土ヶ谷区「第1回紙ヒコーキ大会」開催 泉区「第1回青少年フェスティバル」開催
1989年	H 1	横浜市青少年指導員20周年記念大会開催・20年顕彰開始
1990年	H 2	神奈川区「第1回ホテル観察の夕べ」開催
1991年	H 3	南区青少年指導員だより第1号発行 栄区「第1回SAKAEヤングフェスティバル」開催
1992年	H 4	南区「第1回ふれあいキャンプ」開催



<活動初期の委嘱状>



<旭区青指だより第1号>



<神奈川県・ホテル観察の夕べ>

西暦	年号	行事
1994年	H 6	青葉区・都筑区誕生 青葉区青少年指導員だより第1号発行
1995年	H 7	青葉区「第1回青葉区民まつり、ステージイベント」開催 都筑区青少年指導員だより第1号発行
1996年	H 8	都筑区「第1回つづき発見ウォーク」開催 ※2000年(平成12年)より「つづきウォーク&フェスタ」に名称変更 神奈川県社会環境健全化推進街頭キャンペーン参加協力開始
1997年	H 9	あいちゃんマーク誕生 港北区青少年指導員だより第1号発行 港北区「第1回ペットボトルロケット大会」開催
1999年	H11	青少年指導員による全市一斉夜間パトロール開始 第32回神奈川県青少年指導員大会を横浜市で開催 港南区「第1回チャレンジ・ザ・ゲーム」開催 瀬谷区「第1回瀬谷っ子探検隊」開催
2001年	H13	鶴見区「第1回中学生との交流会」開催 西区「第1回森と海の探検隊」開催
2003年	H15	旭区「第1回親子野外自然体験活動」開催
2004年	H16	第37回神奈川県青少年指導員大会を横浜市で開催 横浜市青少年指導員中堅指導者研修会から横浜市青少年指導員研修会に改称
2005年	H17	「成人の日」を祝うつどいへの当日誘導の協力開始 瀬谷区「第1回瀬谷かるた大会」開催
2006年	H18	有害図書類区分陳列等調査開始
2007年	H19	瀬谷区青少年指導員だより第1号発行
2008年	H20	第41回神奈川県青少年指導員大会を横浜市で開催 港北区「第1回自然体験教室」開催 都筑区「第1回はあと de ボランティア～中高生のための夏休みボランティア体験～」開催
2009年	H21	横浜市青少年指導員研修会の区持ち回り開始
2010年	H22	神奈川県青少年保護育成条例に「青少年指導員」が規定 神奈川区「第1回小学校音楽フェスティバル」開催
2011年	H23	現社会環境実態調査が開始 東日本大震災復興のため、全青少年指導員による募金を実施
2012年	H24	西区「第1回紙ヒコーキ大会」開催
2016年	H28	緑区「第1回防災イベント」開催 熊本地震復興のため、全青少年指導員による募金を実施
2018年	H30	神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会 横浜市青少年指導員新シンボルマーク使用開始



<つづき発見ウォーク>



<瀬谷かるた大会>



<成人の日を祝うつどいにて>

<東日本大震災救援金>
平成23年6月25日
神奈川新聞社提供



<神奈川県青少年指導員制度50周年記念大会>

青少年指導員制度50周年記念誌発行編集委員会委員一覧

- 編集委員長 横浜市青少年指導員連絡協議会会長
副編集委員長 横浜市青少年指導員連絡協議会副会長 3名
横浜市青少年指導員連絡協議会部長 3名
編集委員 各区青少年指導員（連絡）協議会会長 11名
各区青少年指導員（連絡）協議会代表 18名



後方左から小船(港南区)、内山(旭区)、山野辺(保土ヶ谷区)、釣井(磯子区)、渡邊(南区)
前方左から倉形(鶴見区)、菅原(神奈川区)、門馬(西区)、近藤(中区)



後方左から長岡(都筑区)、渡辺(栄区)、國分(泉区)、管野(瀬谷区)、金山(戸塚区)
前方左から小林(金沢区)、白石(港北区)、薄井(緑区)、小暮(青葉区)

編集後記

- 50周年の節目に偶然にも巡り合い、編集委員として関わることができてよかったです。多くの仲間に助けられ記念誌発行まで至りました。仲間たちの協力に感謝です。これからも協力しながら頑張っていきたいと思います。
- 編集委員会では日頃交流のない他区の青少年指導員と議論を共有することができ、他区での取組を知る機会ともなり、大変貴重な経験をすることができました。忌憚のない意見交換ができるのもやはり「青指魂」なのかもしれませんね。
- 記念誌発行にあたり、先輩方の活動を振り返り、青少年指導員の活動の厚みを感じ、それを伝えられるよう心がけました。この記念誌を読んだ方に活動のおもしろさ、頑張りが伝わってほしいと思うとともに今後の青少年指導員の活動に役立つことを願っています。
- 自分の区の原稿を作成していて、活動が多様で紹介したい活動が多く、誌面の編集に苦勞しました。
- 「温故知新」好きな言葉です。記念誌作成に携わることができたのは、私の記念です。
- 私が子どもの頃は「子どもは風の子、元気な子」とよく聞いたものですが、外で遊んでいる子もあまり見かけなくなり、少し淋しさを感じます。

発行年月日：2018年3月31日

発 行：横浜市青少年指導員連絡協議会

印 刷 所：中川印刷株式会社



写真提供:横浜港客船フォトコンテスト

横浜市青少年指導員連絡協議会